

## 一般質問通告書(平成 19 年 6 月定例会)

氏 名・答弁先・質問事項	質 問 要 旨
<p>1 12 番 金子 益三 1 町立病院存続に向けての指針について (町 長)</p>	<p>上富良野町立病院の今後の運営等については、厚生常任委員会、議員協議会などで職員から詳しい現状が説明され、議員各位もそれぞれに思慮してきた。</p> <p>国の医療費歳出削減の診療報酬改定による看護師の二人夜勤体制など、地方自治体だけではどうしようも出来ない法律と診療報酬施設基準の壁により、非常に大変な経営状況である中、医師、看護師、職員全員による地道な努力の積み重ねで、何とか運営を続けている事は非常に高く評価される。</p> <p>このような中、さらに追い討ちをかけるように、平成 2 3 年度末までに療養病床の医療保険と介護保険からの保険給付を削減することを目的に、現在 3 8 万床ある療養病床の医療療養病床 2 5 万床を 1 5 万床に転換削減、介護療養病床 1 3 万床を 2 3 万床に増床転換が計画されることによって、町立病院にある療養病床が廃止されてしまう可能性もあり、このことによってこのままであれば上富良野町においても介護難民が発生する恐れがあると考えられる。しかし、国も小規模老人保健施設(老健)の創設に対して規制緩和や転換補助制度をつくり、これらに対して対応してきた。町長も、平成 2 0 年度までに転換を行わねばこれらの恩恵が無くなる事はご承知と思うので、限られた時間で迅速な決断を行い、すぐにでも小規模老健への転換を行うべきであると考えている。また、平成 1 7 年度決算での、7 5 3 , 6 0 2 千円の繰越欠損金もその 80% が減価償却費であることから、大きく現金が支出されて来たわけではない。加えて毎年大きな支出の一つである建物と医療機器の借入金の償還金も、平成 2 2 年度からは大きくその額が縮減される事もあり、厳しい経営現況の中にあって、若干の明るい未来も無いわけではない。このような状況の中で、町立病院を診療所に縮小してしまえば、地域医療の崩壊となり、加えて医療サービスの低下は著しい事と予測される。財政的にも、国からの交付税も、現在の約 1 2 0 , 0 0 0 千円から 7 , 0 0 0 千円と大きく削減され、近隣の町を見ても、町の繰出金に変化が無かった例もあり、当然ながら有床診療所の運営など夢のまた夢である。</p> <p>町立病院では、平成 1 8 年 1 1 月に超音波診断装置を約 1 千万円で購入。頸部エコー検査ができ、動脈硬化、頸部の血栓による脳塞栓などの予防に絶大な効果がある機械である。また、血圧脈波検査装置という血圧に依存せずに血管の固有の硬さを測定する機器も購入している。</p> <p>さらに、胃カメラ、大腸カメラなどの機材はもちろんの事、検査も常勤医師と旭川医科大学からの派遣医師で実施しており、技術も非常に高いと聞いている。旭川の総合病院で一日かけて検査するよりも、町立病院で半日かからずに検査するほうが、住民にとっても良いことなのに、それらの P R を今まで全くと言っていいほど行っていない。また、わが町は転入・転出者も多く、平成 4 年から実施している夜間診療の P R もなされていないのが現実である。今後の対応は、民間以上に行うべきであると考えている。町長はどのような方策をお考えなのか、直ぐにでも指示を出すべきである。</p> <p>現在、町立病院を利用している患者さんの大部分が交通弱者のお年寄りが多い事や、まだまだ時間</p>

	<p>外に来る患者さんも大勢いる。さらに近年、町内で死亡届を提出されている70歳以上の高齢者の7割が、町立病院で最後を迎えられている実情もあり、ホスピスの役割も果たしていることなども含め、町長の強力なリーダーシップの下、療養病床を早急に老健へ転換を図り、現在の町立病院がなんとしても地域の医療を守るべく役割が果せるように、救急も含め今の町立病院を存続するべきであると考えているが、町長の考えを伺う。</p>
<p>2 広域連合における消防本部について (町長)</p>	<p>富良野圏域5市町村で進めている広域連合も様々な課題の中で進捗しているようである。現在のところ「消防」「火葬場」「国保」「介護保険」「給食」「衛生」「串内」「広域連合事務」の8つについて、圏域で協議されているが、この中の消防について、さっそく来年度を目途に富良野圏域として今まであった富良野消防事務組合と上川南部消防事務組合の一本化が現実的になってきたと伺っている。この消防に関しては当然、各市町村で消防署が従前のように機能するわけだが、本部機能は富良野市と上富良野町にしか無く、今後においても物理的にどちらかがその本部機能を担う必要があると考える。</p> <p>消防の職務は、住民の生命と財産を災いから守る啓蒙と予防、また昨今の高齢化に伴う救急・救命、また、近年においては国民保護法に基づく活動などその職務は複雑多岐にわたる。</p> <p>ここ富良野地方は町長もご承知のように、活火山十勝岳を有する地域であり、ひとたび十勝岳が自然の猛威を振るった時のその被害は、80年前の悪夢を思い出しただけでも想像がつくことと思われる。近年記憶にも新しい平成12年の有珠山噴火時にも、地元の消防署に対策本部を素早く設置して、迅速な対応によって人的被害が出なかったことなども同じ活火山を持つ地域としては、見習う点が大であると考えている。よって、広域連合によって一本化される消防に関して、本部機能はやはり当町に置くべきである。さらに、ここ上富良野町には陸上自衛隊の駐屯地があり、現在の消防署と非常に好条件での立地になっていることを考慮しても、上富良野町に本部があることがベストであると考えているが、町長の考えを伺う。</p>
<p>3 主要国首脳会議開催時の当町への観光誘致対策について (町長)</p>	<p>来年の7月に主要国首脳会議(G8サミット)の開催地が決まり、正式名称も「北海道洞爺湖サミット」と名づけられ、早くも経済波及効果への期待が高まっている。景気下降の局面では最も先に地面に落ち、回復局面では最も遅く地面を離れることから、「ジャンボジェット機の後輪」に例えられる北海道経済にも一筋の明るい光が見えてきた。北海道経済連合会では、サミット開催の経済効果は、直接効果と開催後5年間の波及効果を合わせて約379億円に上ると試算している。試算では、関係者の宿泊費や飲食費などの支出による生産波及が約172億円と推計しており、開催中の観光客の減少などによるマイナス効果の約54億円を差し引いた約118億円の直接効果があるとみている。</p> <p>今回このサミット開催時に、それぞれの国から来られる首脳パートナーの観光の受け皿として、様々な地域が名乗り出ている中で、ここ上川支庁管内も旭山動物園を含む旭川～美瑛～富良野ルートの推奨を行っている事は町長もご承知のことと思う。現在、まだまだその地域の選択決定には至っていないが、各支庁長も、またそれぞれの観光地域の市町村長も熱心に誘致を行っている現状である。</p>

	<p>そこで、ここ上富良野町には深山峠地域などの風光明媚な丘陵地帯、秀峰十勝岳連峰はもとより、世界に誇れる日本画の巨匠のアトリエがあることは非常に大きな強みであると考え。ラベンダーの花咲く丘と様々な農作物によって彩られる美しい大地に加えて、この日本画といった文化施設を加味する事によって、ここ富良野地方の魅力は世界中に広がり、その結果、北海道内外への観光客誘致にとって何よりも変えがたいものにもなるものと考え。この文化施設については、歴代の知事、支庁長も高く評価をされている所であり、当町だけではなく、北海道としても非常に価値の大きいものと考えられている事から、是非この千載一遇のチャンスに、町長の圧倒的なセールス力を活かして頂き、一企業へのコマース行為などといった狭い見ではなく、ここ上富良野町の素晴らしさ、価値をアピールして首脳パートナーの来町に働きかけるべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p>
<p>2 13番 村上 和子 1 行財政改革の推進について (町 長)</p>	<p>平成16年度から行財政改革実施計画に基づき、機構改革、定数削減、民間活力の活用などにより経費節減に取り組んできたが、平成19年度予算編成でも減少を続ける歳入を補うことはできず、今後、従来型の手法では財政的に行き詰っていくことが予想される。平成16年度に行財政改革実施計画に基づき、庁舎内に8つのプロジェクトチームをつくり、その中で行政評価システムについても検討されて平成18年2月に成果報告がされている。この行政評価システムを通じて、事業評価・事業計画・予算編成へと連動させて、事業成果を踏まえた予算配分を行うとともに、協働のまちづくりを進める上でも、行政の責任範囲を明確にし、協働の範囲を町民と共有化する必要がある。</p> <p>また、今年から平成21年度から始まる第5次総合計画の策定に着手したが、単に町民に情報を公開するだけでなく、町民への積極的な説明責任を果たすことが必要であると考え、町長はどのようにお考えか。</p>
<p>2 休日保育や休日一時保育などで、子どもを育てやすい環境の充実を。 (町 長)</p>	<p>上富良野町は、特殊出生率が1.89%で道内でも上位にあるが、子どもを育てる環境として、子育てをしながら働いている母親も多く、中には保育所が休日の日曜日や祝日にも働いており、日曜・祝日に休みたくても休めない状態にある。</p> <p>こうした実態を踏まえて、休日保育や休日の一時保育があれば、どんなにか親も安心して仕事と子育てが両立できるのではないかと考える。厚生労働省では、平成11年度から休日保育に対する職員体制・費用負担など休日保育を効果的に進めるために補助をしている。その割合は、運営費の半分は保護者が負担し、残りは国・道・市町村がそれぞれ6分の1ずつ負担するものである。こういった補助制度を活用して、子どもを育てる環境の充実を図ることができないものか。</p>
<p>3 認知症高齢者の対策について (町 長)</p>	<p>認知症の高齢者が安心して生活ができるよう、グループホームの新設が必要と考えるが、町では財政的な問題もあり、新設が難しい状況である。他市町村においては、民間でグループホームを建設した時点ですぐ認可がなされているが、上富良野町の2ユニット(2棟)のグループホームでは、1ユニットだけが先に認可がおり、もう1ユニットの認可が遅れているのはどういう理由からなのか、お尋ねしたい。今後ますます需用が増え、在宅介護だけでは支えきれない状況が懸念される。民間のグ</p>

ループホーム認可について、町長はどのようにお考えか。

4 廃校した清富小学校を、体験学習や炊事・宿泊などができる施設に補修・改善が必要では。(教育長)

廃校した清富小学校の利用状況は、どのようになっているかお伺いしたい。住民会等の会合の利用はあると考えるが、現在の状態であれば、炊事をしたり、宿泊をしたり、子ども達の体験学習には利用が難しいと考えられるので、少し補修・改善をして体験学習などができる施設にしてはと考えるが、教育長はどのようにお考えか。

3 4番 梨澤 節三  
1 町の将来をめざす姿について (町 長)

5月1日に夕張市に研修に行ってきたが、再建団体直前の昨年の夕張広報誌によると、公債費残額が141億円とあり、一方今年のが町の広報4月号によると町債(借金)残高が145億円とある。夕張市はその後、財政再建団体の宣言をしている。また、今年の夕張広報5月号の本年度予算によると一般会計予算は431億1,100万円とある。この中の諸収入349億4,000万円を除くと、歳入が81億円になり、そのうち市税が11億円である。歳出では、諸支出金353億3,400万円を除くと歳出は78億円となり、のが町の今年度予算は62億円で、税収は約10億円余りですから、夕張市とほぼ同じ財政である。夕張市とのが町の差は地方交付税にある。夕張市の地方交付税は42億4,500万円、上富良野町の交付税は26億8,500万円、この差がそのまま出ている。のが町も自立で行くからには相当な覚悟が必要である。そこでお聞きしたい。

1 夕張市では道から借りた350億円を18年かけて、市長報酬を月額25万円、旅費手当等は一切なし、議員は9名、これはまだ多いと言う声があがっている。職員は130名余、俸給30%減。これでやると職員、市民が一体となっている。そこでのが町のこの異常な財政状況を切り抜けるためのお考えをお聞きしたい。

2 夕張市と上富良野町の広報により、平成19年度一般会計予算の主なところを比較すると、

	夕張市	上富良野町
総務費	14億200万円	6億2,500万円
民生費	22億2,200万円	8億2,200万円
教育費	3億2,100万円	4億6,100万円
商工費	1億700万円	2億500万円
議会費	4,800万円	8,400万円

とあり、人件費は

	夕張市	上富良野町
人件費	7億4,700万円	11億9,600万円

である。これを見ての考えをお聞きしたい。



<p>2 広域行政について (町長)</p>	<p>初めに合併の話が壊れ、次に広域行政のプロジェクトが話だけで終わり、美瑛町との財政の話をして、今また、広域連合の話になったところ、来年4月1日には消防が富良野圏完全合併ということで広域の枠組みがすでに壊れているが、この広域は成立するのか、責任を持って答えていただきたい。</p>
<p>3 町立病院について (町長)</p>	<p>町立病院の経営が限界にきている。町立病院の現状と課題については承知し、町民に支持される町立病院ということについても、問題はない話である。問題は、経営形態と経費の問題である。経費については、病院は限界に近い努力をしている。町長のお考えを。</p>
<p>4 1番 清水 茂雄 1 社会及び家庭秩序について (町長)</p>	<p>1 現代社会において、社会及び家庭の秩序が大音響を立てて崩壊している。想像を絶するような事件が日常茶飯事のように発生し、私たちはその異様さと重大さに戦慄し驚愕の日々、この重大時に私たちは何をすべきなのか、行政、住民が一体となり力をあわせて真剣に考え、健全社会の構築に向けて課題を克服し、次世代に引き継ぐ責任がある。町長はどのような施策を持って対応される考えなのか、誠意と責任を持った答えを示して頂きたい。</p> <p>(教育長)</p> <p>2 教育長は本年の教育行政執行方針の中で、重点推進項目に「あいさつ運動」と「早寝・早起き・朝ご飯運動」に取り組み、人と人の心のつながりを深め、子ども達の望ましい基本的な生活習慣の育成を図っていくと示されたが、その取り組み内容および経過、成果について詳細に伺いたい。</p>
<p>2 交通環境整備について (町長)</p>	<p>1 自衛隊駐屯地東門から国道237号線に抜ける北24号路線は、斜線を利用する大型車両が市街地を避けて頻繁に通行するために非常に危険であり、早期に歩道の設置が必要である。</p> <p>2 中町2丁目2番の消防団詰所跡地の利用について、中町はまちの中心部であるが、周辺に十分な駐車場スペースがなく不便であり、まちの活性化の上からも跡地を無料の町営駐車場とすべきである。</p> <p>3 以前から要望している北27号路線の改良について、安全面から最低限、歩道及び信号機の設置を強く求める。</p> <p>以上3点について町長の考え方を伺いたい。</p>
<p>5 11番 中村 有秀 1 国民年金の年金記載漏れ等について (町長)</p>	<p>社会保険庁の国民年金の記録もれによる年金支給漏れの可能性がある未処理件数が5,000万件、また、マイクロフィルム化したまま、未処理が1,430万件あると報道されている。</p> <p>平成14年度から国民年金保険料の徴収が町の事務から国の事務に移行され、被保険者が金融機関を通じて直接納付する現金納付になり、納付書も社会保険事務所から直接送付されている。</p> <p>町が徴収していた平成14年3月までの納付原簿(国民年金被保険者名簿)等について下記項目について伺う。</p> <p>1 町民が国民年金保険料を納付した平成14年3月末までの納付元帳(原簿)は、上富良野町は廃棄せず保管されていると聞かすが、納付原簿の取扱期間とその件数及び整理状況は。</p> <p>2 平成14年3月までの納付元帳は、どのような方法で社会保険庁で電算化され、その入力点検と確認方法は。</p>

	<p>3 今回の年金記録もれの報道により、町民から町への照会の有無、また、社会保険事務所から町への照会の有無、あればその内容について。</p> <p>4 過去に保険料を納付されなかった人の救済措置としての「特例納付」は3回実施されているが、当町の納付取り扱いの有無は。</p> <p>5 町民の年金記録等について、社会保険庁（旭川社会保険事務所）への照会方法を含めて町民への周知を図るとともに、積極的に町民の相談に応じる体制を作るべきと考えるが、見解を求める。</p>
<p>2 島津公園の利用等について （町長）</p>	<p>島津公園は樹木が茂り、池があり、ボートも浮かび多くの町民に利用されてきた。平成15年からパークゴルフ場もなくなり、最近では島津公園入り口周辺及びボート乗り場までの利用があるが、その奥までの利用が極端に少ない状況になっている。そのような中で、島津公園周辺の住民及び高齢者、パークゴルフ初心者から、次の要望意見が寄せられたので、見解を求める。</p> <p>1 富町2丁目6番周辺から島津公園出入口があるが、車椅子でも出入りできるようにバリアフリーのスロープにして階段をなくし、スロープの傾斜を緩やかにし、障害者・高齢者・車椅子利用者が自由に出入りが可能なように改善を求める。</p> <p>2 島津公園の池周辺に簡易な9ホールのパークゴルフ場の設置について、周辺住民から強く求められている。維持管理については利用する関係住民の協働の力で進めたいとのことなので、特段の配慮ある見解を。</p>
<p>3 小中学校校舎の耐震診断について （教育長）</p>	<p>平成19年6月8日、文部科学省が全国の公立学校の耐震診断の実施率と耐震化率の最新の調査報告を発表した。北海道の小中学校の耐震診断実施率は66.2%（全国平均89.4%）、校舎の耐震化は44.8%（全国平均58.6%）となっており、いずれも全国では下から4番目である。</p> <p>道内で「耐震診断の実施も計画もゼロ」の33市町村の中に、上川管内では上富良野町、中富良野町、南富良野町、音威子府村の4町村のみである。道教委では平成17年度に「学校施設耐震化推進指針」を作成し、市町村教育委員会に学校の耐震診断や耐震化改修を指導してきている。</p> <p>このような状況の中で、上富良野町の小中学校校舎の耐震診断等について、次の項目について伺う。</p> <p>1 上富良野町の小中学校校舎の要耐震診断校舎は何校で学校名は。</p> <p>2 耐震診断未実施の大きな要因は財政的問題と考えるが、道教委の指針から今日までの取組みの経過について明らかに。</p> <p>3 耐震診断と耐震化は児童生徒の命にかかわる問題であり、十勝岳爆発災害、地震発生時の町民の避難場所となるのが学校であるので、まず耐震診断を早急に行うべきであるので、実施計画について明確に。</p>
<p>4 上富良野町パークゴルフ場の36ホール化について （教育長）</p>	<p>平成15年4月に上富良野町パークゴルフ場が27ホールでオープンして以来、町内外から多くの人々が利用され、コースの芝のよさ、十勝岳や日の出公園をバックにしたすばらしいロケーションと大好評である。しかし、最近では美瑛町に54ホール、富良野市に36ホールが2コース新設と良好な芝で、</p>

	<p>愛好者がプレーを楽しむ、また、各種大会は 36 ホールが基本なので、だんだん他市町のパークゴルフ場を利用することになってきている。</p> <p>その事は利用者数にも反映され、年々激減を示している。利用者増を図るには 36 ホールが必須である。財政的にあと 1 コース 9 ホール設置は厳しい状況にあるが、理事者を含めて関係者が協議をしていくべきと考えるが、次の点について見解を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 1 コース 9 ホール増設についての基本的な考え方を。</li> <li>2 1 コース 9 ホール増設について、関係者と協議検討する機会を設けることについては。</li> </ol>
<p>6 9 番 米沢 義英</p> <p>1 自衛隊演習場の騒音被害対策について (町 長)</p>	<p>自衛隊の訓練は、アメリカが海外で武力攻撃を行ったことを想定した砲撃訓練、射撃訓練、戦車走行訓練などの実動訓練が上富良野演習場で行われている。しかし、一方で演習による騒音被害の苦情が住民から出されている。例えば、民家付近での砲撃訓練による騒音で家屋が振動する、戦車が午前 6 時から走行する。機銃の射撃訓練による騒音、自衛隊が出していると考えられる電波によりテレビの映像が乱れるなどの障害が発生している。この現状を放置できないとして、地域住民と行政・防衛施設局との懇談会がもたれたが、その内容と今後の改善策等の対応について伺いたい。</p>
<p>2 多重債務対策・年金相談窓口の設置について (町 長)</p>	<p>国においては、ヤミ金融の集中取り締まり対策として、すべての市町村での多重債務問題の相談窓口を 2009 年末までに設置するとの提言をした。町の対応について伺いたい。</p> <p>さらに、社会保険庁のミスによる年金の未処理問題は、いまや国民の関心の的になっているが、直接の相談窓口は社会保険庁の対応だが、町としても住民の年金に対する疑問に対応できる相談窓口開設の考えと、年金記録の保管の現状と、住民からの年金の相談件数について伺いたい。</p>
<p>3 住宅改修時に対する補助制度について (町 長)</p>	<p>公共事業の予算が減少する中で、地域の活力も弱まる傾向にあるが、町においては地域経済の雇用対策と活性化に結びつく具体策が必要と考える。その点で住宅の改修時に補助制度を設け、実施している自治体では、地域経済の活性化の呼び水となっていると聞いている。町においても、住宅の改修時に対して、補助制度を設けてはどうかと考えるが、町の対応について伺いたい。</p>
<p>4 町立病院の運営について (町 長)</p>	<p>町立病院の運営に困難をきたしている要因の多くは、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国が実施してきた医療制度改悪にあると考えるがいかがか。 例えば、診療報酬の削減などで 18 年度の診療報酬が 17 年度対比でも、入院・介護収益だけでも 2,900 万円の減額になっている事をみても明らかではないか。国に実態に合った診療報酬の改定を要求すべきでは。</li> <li>2 繰越欠損金の合計が平成 17 年度で 7 億 5,360 万円になっており、そのうち減価償却費の合計は 6 億 1,269 万円 (81%) となっているが、会計上の処理に起因することの問題であり、町が財政措置をするべきとも考えるが、伺いたい。</li> <li>3 内部努力による経費の削減が求められることは当然だが、それと同時に地域の健康を守る医療機関として住民に信頼される医療機関になるためにも、保健福祉との連携、医療従事者の質の改善な</li> </ol>

	<p>ど、院内アンケートや住民の声などを病院の運営に生かし、町立病院を地域の医療機関として存続すべきだと考えるが、答弁を求める。</p>
5 小児科の設置について (町長)	<p>町立病院に小児科外来設置を望む声が聞かれるが、対応について伺いたい。</p>
6 学校の耐震診断について (教育長)	<p>全国の公立小中学校の校舎や体育館など、12万9,559棟のうち、耐震基準を満たしているのは58.6%であることが分かった。道内では7,423棟のうち耐震基準を満たしているのは44.8%となっている。道内での耐震化診断未実施は、33市町村で上富良野町も入っている。この間の答弁でも明確な方向性を明らかにしていないが、今後の耐震化診断の実施計画を明確にすべきだと考えるが、答弁を求める。</p>
7 西小学校グラウンドの整備について (教育長)	<p>西小学校のグラウンドの水はけが悪いことは以前から指摘されているが、今後の実施計画について伺いたい。</p>
8 上富良野高校の存続について (教育長)	<p>上富良野高校は当面存続が決まったが、道の公立高校適正配置計画で統廃合の対象になっていることにはかわりがない。高校の適正化計画の現状はどのようになっているか。また、地域の合意なくして道の一方的な高校の統廃合をやめるように引き続き町としても要請すべきだと考えるが。</p>
7 5番 小野 忠 1 第5次総合計画策定にあたり町長の基本姿勢について (町長)	<p>町政執行方針の表明で、標題について策定すると言及されているが、ご案内のとおり、該当年度は平成21～30年度にあたる。については、町長の去就が注目されるところであるが、現職の立場から前向きに検討されるものと期待をしているが、行政改革の着実な推進のもと財政構造の転換にむけて、鋭意努力されてきている事は、高く評価している。一般財源縮減傾向にあり、平成20年度は50億後半の財政規模となり年々厳しくなる事と考える。</p> <p>このような見通しの中で、第5次総合計画の樹立にあたって町民からの行政需要、行政サービスの低下を招かないようにすることは、容易でないと考える。</p> <p>第3次、第4次の総合計画を踏まえて町長が判断し、てその芽すら具体化していない事案も若干ある。町長が自ら考えている、町民が将来的に希望をもてる、真の豊かさをどのように第5次総合計画の中で、相加的でなく現実味のある、ふれあい大地の創造をどのように展開される考えか、所信を伺いたい。</p>